

# 遠野地区の稲作におけるグリーンな栽培マニュアル

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月																																															
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																															
生育	活着期							幼穂形成期						出穂期			成熟期																																																				
主な作業	耕起		播種			代かき		移植															収穫																																														
肥料 農薬	鶏糞+肥料						農薬①		農薬②		農薬③						時期はおおよその目安です																																																				
水管理								深水		浅水		中干し		間断かんがい		花水	間断かんがい		落水																																																		
栽培 技術 の 要 点	<p>〈品種〉 天のつぶ、コシヒカリ、福笑い</p> <p>〈品種特性〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>天のつぶ</th> <th>コシヒカリ</th> <th>福笑い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早晩性</td> <td>中生の晩</td> <td>中生の晩</td> <td>中生の晩</td> </tr> <tr> <td>出穂期</td> <td>8月2日</td> <td>8月6日</td> <td>8月8日</td> </tr> <tr> <td>稈長(cm)</td> <td>70</td> <td>90</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>穂長(cm)</td> <td>18.6</td> <td>19.1</td> <td>19.9</td> </tr> <tr> <td>穂数(本/m<sup>2</sup>)</td> <td>479</td> <td>412</td> <td>436</td> </tr> <tr> <td>収量(kg/10a)</td> <td>686</td> <td>629</td> <td>659</td> </tr> <tr> <td>耐倒伏性</td> <td>強</td> <td>やや弱</td> <td>やや強</td> </tr> <tr> <td>耐冷性</td> <td>やや強</td> <td>強</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>葉いもち</td> <td>やや弱</td> <td>弱</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>千粒重(g)</td> <td>23.1</td> <td>22.4</td> <td>24.2</td> </tr> <tr> <td>味度値</td> <td>84.6</td> <td>84.4</td> <td>88.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>郡山市のデータ。2014年～2018年の平均値。</p>								天のつぶ	コシヒカリ	福笑い	早晩性	中生の晩	中生の晩	中生の晩	出穂期	8月2日	8月6日	8月8日	稈長(cm)	70	90	77	穂長(cm)	18.6	19.1	19.9	穂数(本/m <sup>2</sup> )	479	412	436	収量(kg/10a)	686	629	659	耐倒伏性	強	やや弱	やや強	耐冷性	やや強	強	中	葉いもち	やや弱	弱	中	千粒重(g)	23.1	22.4	24.2	味度値	84.6	84.4	88.2	<p>〈播種〉</p> <p>【播種量】 乾籾200g/箱が基準</p> <p>【苗病害防除】 播種時～緑化期に土壤灌注 例) ナエファインフロアブル</p> <p>〈移植〉 出穂期以降の登熟初期となる8月上～中旬の高温に遭遇しないようにするため、出穂期を遅くするため、移植時期は5月中旬～下旬が目安。</p> <p>【肥料】肥料と同時期に鶏糞資材も施用</p> <p>① 投入する全N成分の2割を有機質資材由来(鶏糞)とする。 天のつぶ: 全N成分8kg/10a(うち、有機質由来は1.6kg/10a) コシヒカリ: N成分6kg/10a(うち、有機質由来は1.2kg/10a) 福笑い: 全N成分8kg/10a(うち、有機質由来は1.6kg/10a) 例) もとひ一発R244(22-14-14) 20kg(1袋)/10a投入でN成分4.2kg</p> <p>【農薬】</p> <p>① 箱処理剤: いもち病の防除を徹底 例) ブーンレパード箱粒剤 ② 初期剤・初中期一発剤 例) エンペラー1kg粒剤</p> <p>〈カメムシ防除〉 畦畔の草刈り 出穂10日前までに実施する(周囲に出穂の早い品種があればそれに合わせる)</p> <p>③ 斑点米カメムシ防除剤 例) スタークル粉剤</p>							<p>〈水管理〉</p> <p>【ファーモの設置と回収】 代かき後、田面が落ち着いたら設置し、田植え後から運用する。 用水がなくなったら、収穫前に回収する。</p> <p>【中干し】6月中旬から7月上旬の中で14日間実施 有効分げつ確保後に速やかに実施する。小さなひびが割れができる程度に田面を固める。メタンガス発生抑制のために慣行より7日間延長する。</p> <p>【低温時の水管理】 幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。</p> <p>【出穂以降の水管理】 高温時は「飽水管理」を行い、白未熟粒の発生を抑える。 落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。</p> <p>〈収穫〉</p> <p>【刈取り適期】 ・籾黄化率は85%以上を目安とする。 ・積算気温は1100～1200℃を目安にする。</p> <p>【乾燥調製】 乾燥速度は毎時0.8%以下を目安に行う。 高水分籾は2段乾燥を行い乾燥ムラを防ぐ。</p>						
		天のつぶ	コシヒカリ	福笑い																																																																	
早晩性	中生の晩	中生の晩	中生の晩																																																																		
出穂期	8月2日	8月6日	8月8日																																																																		
稈長(cm)	70	90	77																																																																		
穂長(cm)	18.6	19.1	19.9																																																																		
穂数(本/m <sup>2</sup> )	479	412	436																																																																		
収量(kg/10a)	686	629	659																																																																		
耐倒伏性	強	やや弱	やや強																																																																		
耐冷性	やや強	強	中																																																																		
葉いもち	やや弱	弱	中																																																																		
千粒重(g)	23.1	22.4	24.2																																																																		
味度値	84.6	84.4	88.2																																																																		